28PA-pm450

日本薬剤師会会報の内容　(明治 27 年，昭和 9 年)

〇五位野 政彦[1,2]（[1]東京海道病院, [2]日本薬史学会）

【はじめに】明治時代の日本薬剤師会(日薬)の機関誌は「薬剤誌」(第二期）が知られている．谷岡は同誌休刊時の明治 26-34 年の間に 2 種類の「日本薬剤師会会報」，さらに昭和改元後にも日薬が「会報」を発行していたと報告している．しかしその具体的な内容には触れていない．今回明治 27 年の同会「会報」ならびに昭和 9 年の「会報」のそれぞれ一部を調査した．その結果を報告する．

【調査方法】右記資料を参照した．「日本薬剤師会会報」(明治 27 年, 昭和 9 年)

【結果】今回調査の「会報」には次の事項が掲載されていた．

1. 明治 27 年版：日本薬剤師会記事，地方薬剤師会記事，地方通信，論説
2. 昭和 9 年版：会務報告，国会議事抄録，第五改正日本薬局方改正常会

【考察】1. 明治 26 年の「会報」創刊号は「写真ブック」の体裁であったとされる．しかしその後の明治 27 年版「会報」は「薬剤誌」(第一期)や「薬学雑誌」に似た構成であった．これはそれぞれの発行者（東京薬剤師会，日本薬学会）のメンバーがそのまま「会報」の編集に携わったためであると考えられる．

2. 「薬学雑誌」は大正時代に「論文専門誌」となっていた．同様に昭和 2 年以降の日薬公法人化後の「会報」も全国(含植民地)の会員への実務関連の通達告知を目的としたものであり，同時期の「薬剤誌」(昭和時代)とは異なっていた．この「会報」(日薬)と「薬剤誌」(昭和時代)の関係は，発行者の違いはあっても「薬学雑誌」と「日本薬報」/「ファルマシア」の関係に類似している．薬学では，「会の目的/存在理由」の出版物と「会員向けの情報提供」との 2 本立ての構成が 20 世紀初頭から存在していたと考えられる．

【文献】1)創立八十周年記念日本薬剤師会史. (1973)
2)五位野. 薬史学雑誌. 51(2016). 86-95　3)五位野. 薬史学雑誌. 52(2017). 30-40